



1



2



春の訪れを感じさせる水仙の花

## 4月 イースター（復活祭）

寒くて長い冬が過ぎるとイースター Oster (復活祭) の季節が訪れます。キリスト教では日付を固定しない移動祝祭日があり、『春分後の満月に続く日曜日』と定められているイースターは、キリストの復活を祝う重要な春の祝日です。毎年3月22日から4月25日のいずれかの日曜日がイースターになります。

### イースターのたまご探し Ostereiersuche

イースターの朝、子どものいる家庭では、お母さんは子ども達よりも早起きしてカラフルなたまごを家の中や庭に隠します。目を覚ました子ども達は、ウサギが置いていったといわれるたまご(キ

リストの復活を意味するシンボル)やチョコレートを探します。たまご探しの後、子羊を模ったケーキなどの朝食を家族でとってから教会の礼拝に行きます。

この季節になると、ウサギやたまごの形をしたチョコレートが街中のお店に飾られます。

photo 1

中世にはユダヤ教の過越しの祝いに子羊が供えられたことから、現在でも子羊の形をしたケーキがイースターに焼かれています。その子羊と見間違えられたウサギが、近年になってイースターの象徴となったという話もあります。2

## イースターのたまごづくり



たまねぎや自然の素材で色づけられたたまご



ろうけつ染めの方法で色づけられたたまご



たまごは枝に吊るして飾ります

### たまごを色づける Ostereier bemalen

職人がたまごに手描きする場合、まず、たまごの上下に穴を開け、中身を吹き出してきれいに洗って乾燥させてからロウで模様を描きます。春の訪れを象徴する花や葉っぱのモチーフにすることが多いです。ろうけつ染めの手法では、ロウで模様を描いた後、染料の中にたまごを入れ、ロウが付いた部分が白く残るようにします。

### 自然の素材で、たまごを色づける mit Naturefarbe bemalen

たまごを染める染色剤はお店でも売られていますが、たまねぎの皮や紅茶など自然の素材を使って茶色に染めることもできます。キツタは緑に、サフラン、ヒメウイキョウは黄色に、赤カブの汁では赤く染めることができます。液にお酢を加えるとさらに鮮やかな色になり、たまごがまだ熱いうちにベーコンの皮で脂分を擦りつけて完成です。色づけされたたまごは、ネコヤナギやレンギョウなどの枝にぶら下げて飾ります。